野木小学校
同窓会報
第27号
平成29年1月
野木小学校同窓会編集部

ご挨拶

第53回卒（昭和37年）
同窓会会長（下野木）　倉谷廣雄

同窓会会員の皆様におかれましては、益々のご清福にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

日頃より当会の運営、活動に何かとご指導、ご鞭撻を賜っておりますこと心より御礼申し上げます。

現在同窓会事業といたしましては、会報の発行が主な事業となっており、本年も二十七号を無事発行することができました。一昨年より寄稿者集落ローテーション化を取り入れた形になっております。本年は六十歳以上の方は玉置、四十・五十代の方は下野木、三十・四十代の方は杉山、二十・三十代の方は兼田の各集落の会員様に寄稿をお願いし、ご理解、ご協力をいただきました。心からお礼申し上げます。

会員名簿の発行につきましては、個人情報の漏洩の危惧等により発行しておりませんが、希望される方は同窓会事務局（野木小学校内）へご連絡下さい。

平成二十七年度の卒業生より、未来の自分へのメッセージや、手紙・写真などを入れ、成人式など特別な日に開けるタイムカプセルを野木地域づくり協議会様より助成をいただき始めております。この趣旨は地域の人口の減少・少子化等を解消したく、野木地区への愛着心を持っていただき、一人でも多くの方が住居し住みよい野木の里作りと考えられておられます。これも一重に同窓会の発展にも繋がるものと喜んでいるしだいです。

この事業を将来は同窓会事業として取り入れ、会員皆々様のよき思い出にできればと思うところです。

会員皆様の一人一人の思いをお寄せいただき、野木小同窓会会員相互の融和と団結を図り、母校の発展と会員皆様のご健勝を祈念し、ご挨拶とさせて頂きます。

歌って楽しい野木の里　野木小学校

野木小学校 校長　檜鼻幹雄

野木小学校同窓会、野木地区の皆様には、いつも大変お世話になり、まことにありがとうございます。

同窓会の皆様がそうでありますように「『私が卒業した学校は、野木小学校です。』と将来誇りをもって語り、野木地区を愛する子供たちを育てましょう。」というのが、野木小学校職員一同の願いです。子供たちの誇りとは、学校で培われる自信や気概にほかなりませんし、子供たちが学校で経験した全てのことから生まれます。そして、それは、地域の方々、保護者、学校の職員が一緒になってこそ、つくりあげていけるものだと思います。

今年の野木小学校の全校児童数は七十九名です。大規模な学校であろうと小規模な学校であろうと、そこで培われる子供たちの気概や自信は決して変わるものではありません。野木小学校に赴任して二年目となりますが、地域や保護者の方々に支えられ、様々な体験を積み重ねながら成長している子供たちと共に、地域と学校の在り方について勉強させていただいた二年間でもありました。

野木小学校の子供たちは、今年一年だけでも、田植え、フラワー交流、野木地区総合体育大会、稲刈り、敬老会、三世代交流学習等の行事の中で様々な人と触れ合いながら体験的な学習を積むことができました。地域や保護者の方々の声援を受けながら競技や演技を行った体育大会は、普段の学校生活以上に生き生きとした元気な子供たちの姿を見ることができました。地域と共にある学校の象徴と言える

行事となりました。

野木小学校の学校教育目標は「共に生きる－明るく かしこく たくましく」です。どんな形であれ、将来、地域のために貢献できる子供たちに育ってほしいと願っています。学校もまた、地域に支えられながら地域のために貢献することを目標に、努力してまいりたいと思います。変わらぬご支援とご協力を今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

旧職員からの便り

つながりの中で

（平成7年度～8年度）
（平成17年度～18年度 職員）

森北 良嗣

野木小学校のことを思い返すと、三つのつながりが頭に浮かびます。

一つ目は子どもたちとのつながりです。私は五、六年生を担任させていただきましたが、子どもたちの素直で、何事にも一生懸命にがんばる姿に仕事のやりがいを感じました。

特に印象に残っているのが、六年生を送る会です。この会で五年生が初めて全校行事の企画・運営を行います。子どもたちは準備を進める中で、失敗を繰り返しながら多くのことを学び、会が成功する中で自信をつけました。ある年には、みんなで笑点の大喜利をして楽しんでもらおうと準備し、体育館を笑いの渦に巻き込みました。その後、六年生になり学校を引っ張り、それぞれが大きく成長し、中学校へと旅立っていきました。

二つ目は地域とのつながりです。私は当時、体育主任を務めていました。その仕事の中で、地区との合同体育大会が三回、延期になったことが印象に残っています。その年の秋はなぜか、週末になると台風が日本に近づいてきました。毎週、朝早くに公民館に集まり、地区の皆さんと大会を開催するか協議しました。一度は大会ができると判断し、開会式を行ったものの、急に大雨が降り、途中で延期になったこともありました。

あまりにも延期が続くので、小学校だけで平日に大会を開催することも検討されました。しかし、体協の役員の方は、「地区と学校は一つなので合同でやりたい。子どもたちが思いっきり練習の成果を発揮できるよいコンディションの日に地区の人に成果を見てもらおう。」と言って、何度も準備を進めてくださいました。地域が小学校を大切に思い、サポートしてくださっていることを痛感しました。

三つ目は私の父とのつながりです。私の父も教員でした。そして野木小学校に勤務していた時に亡くなりました。私が中学校一年生だった夏の朝、臨海学校へ行くと言って家を出た父が、その日の夕方にまったく動かない状態で帰宅したことは、今でも心に残っています。そんな野木小学校に勤務することなった時には縁を感じ、志半ばで亡くなった父の思いを感じながらがんばっていこうと思いました。

このようなつながりの中で自分が生かされ、充実した日々を送ることができました。今後も感謝の気持ちとつながりを大切にして教員生活を続けていきたいです。

旧職員からの便り

心のふるさと野木

（平成19年度～24年度 職員）

西田 奈穂

野木、それは私にとって「心のふるさと」。

今の私をつくってくださった地域。人間の幅を広げてくれた場所。それは、野木の「温かく大らかに楽しむ心」、この『野木マジック』のおかげだと思っている。

児童会行事の「カラオケ大会」では、各学年が歌声やパフォーマンスを競い合った。それに向けて、練習・準備に

熱くなり、衣装をおばあちゃんが作ってくださったり、担任もかぶり物を作ったり…。あまりの過熱ぶりに練習時間制限、衣装・小物制限も加えられたが…。職員も、「ヤッターマン」や「街角トワイライト」を発表し大盛況。

もちろん素直に一生懸命、毎日の学習や活動に励む野木っ子の姿があるのは言うにおよばず。特に、町小中学校音楽会に向けてのひたむきな練習の姿、そして本番のパレアのステージで思いっ切りはじけた姿が印象的だ。

また、野木小学校百周年では記念の歌「さあ、飛び立とう!」の詞を当時の五年生と担任の中村正人先生で作成した。メロディーを五年生と私が担当。合唱曲として故藤田カブロー先生に作成をお願いした。

CDの唄は藤田美穂さん。それを聞きながら全校で練習し、町音楽会でもこの曲を発表させて頂いた。その後、卒業式でも歌うようになった。

私が野木小を転任するため荷物をまとめていた日曜日。グラウンドに男女仲良くサッカーをする姿。それは三年間担任をさせてもらった子たちの中学卒業直後の姿だった。野木を去る私にエールを送ってくれた。

それから三年がたち、「先生、今、集まっとんやけど来れる?」と野木地区体育大会後に、あの転任の日に連絡先を交換した子どもたちから電話をもらった。この子らは高校を卒業し、それぞれの道を歩み出した年である。いつまでも変わらない、この温かさ、大らかさ…。

子どもたちだけではない。「やあ、元気?」と、出会うたびに、ひとしきり話し込んで一花咲かせる保護者の方々。

生活を思いきり楽しめるから学習にも意欲をもって取り組める。家庭での基盤がしっかりしているからこその、子どもたちのパワーだったと、心から感謝している。

この六年間、その後も野木の皆さんと仲良くさせてもらっていることが今の私に元気を与えてくれている。心からお礼申し上げます。

会員からの便り

「野木小学校の思い出」

第60回卒（昭和44年）
玉置　塚本裕一

小学生時代から五十年も経つと、さすがに楽しかったことも忘れがちですが、鮮明に残っていることがあります。

その一つがまだ校舎が木造だった頃の「坂廊下」です。職員室や給食室などがある校舎と講堂を繋いでいる五メートルくらいの微妙に曲がっていて数十センチほど下った不思議な廊下。それを渡る前の左手には壁いっぱいの大きなランプ付きの世界地図がありました。スイッチを押せばその国の首都だったかランプが灯るという仕掛け。右手には壁に埋め込んだちょうど浴槽ぐらいの水槽があり、ちょくちょく外から掃除をした覚えがあります。その頃僕は勉強よりそっちの方が楽しかったようです（笑）。

その坂廊下前の右に階段があり、それを上ったところに「子供銀行」がありました。その階段の入り組んだ造りがとても印象的でした。

また、坂廊下を渡った先の講堂には、ステージの左側に体育で使ったマットや跳び箱がありました。何ともいえない香ばしい匂いが今も残っています。その右側には古いアップライトのピアノがあって、少し弾いた覚えがあります。音はちょっと西部劇に出てくるような調律不足の響きでしたが。坂廊下から講堂を通り過ぎるとすぐ左に購買がありました。鉛筆、ノートなど子供たちで販売していたと思います。

今から思えば情けないこともありました。六年生だったかスズメが死んでいたので、講堂の脇に埋めたのですが、そこまではいいとして、よせばいいのに仲間と鼓笛隊用の太鼓、シンバル、トライアングルを音楽室から持ってきて、あの「チーン・ポーン・ジャらーん」をやってしまったのです。その途中で確かあれは本田先生だったか、「何やってんだ！」と叱られ、無言でぞろぞろと引き揚げたなんとも格好の悪い思い出もあります（みんなごめんなさい）。

小学校の思い出は、いい仲間（同級生：女子九名、男子十八名）と一緒に遊んだことで、当時木造だった校舎が僕にとってもいい遊び場でした。その校舎も卒業してすぐになくなってしまいました。

ところで思い出といえば卒業文集がありますが、そこに将来の夢をそれぞれが書いています。僕の夢はなんと身の丈を知ってか立派ではなく「普通のサラリーマン」でした。不思議とそのとおりになっています。夢はもう少し大きくても良かったんではないかなあ（社長とか）とちょっぴり後悔してます。

最後に小学二年生のときに親子遠足で行った天橋立の集合写真がありましたので紹介させていただきます。

会員からの便り

自分と娘、月日の流れ

第76回卒（昭和60年）
下野木　倉谷禎成

この便りを書くにあたり、三〇年以上前にもなる自分の小学校時代の記憶を探ってみると、いくつかの風景が思い出されました。入学した頃の野木小学校のグラウンドは校舎裏にあったこと。今では地区の運動会と合同で行われていますが、当時は小学校のみの運動会だったこと。その運動会で短距離走を地下足袋を履いて走ったこと。新しくプールが建設されたこと。校舎裏にあったグラウンドが空き

地にされ、校舎の前に建設され始めたこと。ランチルームができ、全校生徒で壁に絵を描いたこと。通学路にまだ舗装されていないところが多くあったこと。自分が思っていたよりもこんなにも多くのことが思い出されたことに驚きです。さらに、道路わきには今よりも多くの草木が茂り、辺り一面緑だったように思います。今では整備も進みとてもきれいに、利用しやすく安全になりました。

その後、自分の娘が入学することになり、買ったばかりのランドセルを背負った娘の小さな身体と大きなランドセルのアンバランスさに驚き、本当にこんな様子で毎日片道3キロも歩いて通学できるのだろうかと、心配したことを覚えています。帰宅後、学校の感想を聞いたとき真っ先に「楽しい」との元気な返答があり、安心したことも覚えています。先生や友達、優しい上級生に恵まれ、楽しく元気に学校生活を過ごせたことがとてもありがたく、感謝してもしきれないほどです。

自分が保護者になり、改めて人間関係の大切さを学ぶことができました。野木地区の方々は本当に優しく何事にも協力的で子供を育てる環境に適していると強く感じています。

娘の在学中には校舎の耐震補強工事も行われ、仮設教室への移動作業などにかかわることもありました。

野木小学校の変化の時を間近で見ることが多かったため、今後も見守っていきたいと思っています。

また、娘が自立し始めた今、これからは自分自身が今以上に子育てに適した環境を作れるよう、日々様々なことに悩みながら、過ごしていきたいとも思っています。

会員からの便り

思い出

第81回卒（平成2年）

杉山　橋本太志

朝から晩まで、服を泥だらけにして遊ぶ。遊びの合間に学校で勉強をする。振り返ると、こんな小学生でした。そんな心持ちだったせいか、登下校時は列をはみ出し、空き缶を蹴りながら、草（オオバコ）相撲やしりとりをしながら、時には運動会の練習がてら家まで走って帰る。冬は、放射冷却で凍った雪の上が通学路とばかりに、田んぼの上を突っ切り、最短距離で近みち。一番好き勝手が出来た時期でした。

家に帰れば、まず遊びに出かけ、野球、缶けり、陣取り…。休みの日ともなれば、集落の男子で集まり川遊び、山へ入って砂防ダムで魚釣りや秘密基地作り。野イチゴ、アケビやイチジクなど、食べられるものはとりあえず口に（笑）。怖いもの知らずで、よくあんな事が出来ていたなぁ、と思い出しながら感心しています。なにをするにも初めて経験することばかりで“ドキドキ・わくわく”が楽しくて、嬉しくて。

当然、なにをしても許されるわけもなく…。宿題を忘れて、廊下に立たされるなんてことも（笑）。そんな日は、『どうしよう、どうしよう』とあたふた。先生って怖かったなぁ。「先～生に言うた～ろ～♪」が、日常茶飯事でした。

良いことも悪いことも経験して、喜んで・心配して・怒って・落ち込んで、そして学習して改善する。大人になった今も、人としての中身は、この頃学んだことが基礎となっています。

現在、わが子も野木小学校に通っています。わかっているはずなのに、口うるさく叱ってしまい、子育ての難しさを実感する日々ですが、三世代交流、稲作体験、昔遊びや見守り隊など、地域の方々の支えを頂きながら、元気に生活を送れている事を嬉しく思

います。朝、ピチピチした声が有線放送から聞こえるあいさつ運動や、発表会なども楽しみとなり、学校の取り組みや環境作りにも助けられています。

時代が少しずつ変化し、私の小学校時代とは変わったところもありますが、今の在校生達も、大人になって振り返った時、『輝きのある野木っ子』だったなぁ、と思えるような経験を、沢山積み重ねてほしいと願います。

会員からの便り

「故郷香」

第98回卒（平成19年）
兼田　福井健人

都会の街は匂いに溢れている。飲食店の傍を通れば美味しそうな、けれど少し鼻につきすぎるような、そんな匂い。人の多い所では何十、何百という彼らの生活臭や体臭。アパレルショップやブランド店などでは威嚇するかのように御香や香水の匂いが渦を巻いている。

車道近くでは排気ガスや、ゴムとアスファルトが擦れる独特な匂い。

地下鉄の駅には金気臭さや、連なる売店街の匂い、塗料の匂いなどが行き場を失い居座っている。川の近くにすら、何かくぐもって停滞しているような生活排水の匂いがある。今日は一体何月だったか、今は一体何時なのか、ともすれば忘れてしまうようなせわしない僕の毎日はそんな匂いに溢れている。

ただ時折懐かしい香りを感じることがある。

少しずつ暖かくなる空気とまだ冷たい風が喧嘩する、始まりを期待させるような香り。乾ききった土に雨がしみこんでいくあの香り。

短い一生のために一斉に真上の太陽を見上げる青々しく力強い野草の香り。激しい寒暖の差でしっとりと結露した公園のベンチの香り。

寒さに最後の抵抗を見せた草花の残り香。鼻の奥をつんと刺すような冷えた朝の香り。強すぎる街の匂いの隙間にふとこれらの香りをみつけたとき僕の体内時計がようやく動き出す。何も考えず何にも縛られず山や体育館を走り回っていた時、校庭で白球を追いかけたり、川でおぼれかけたり、一輪車で何度も転んだり、雪の田んぼに飛び込み靴を片方なくした時、間違いなく僕らは季節の中にいた。

あの頃、毎日が季節の、時間の香りに包まれていた。

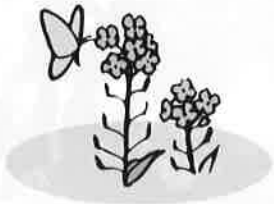
今、離れてみるふるさとは不便な山中の片田舎では無い。そこで過ごした思い出が、時間が、大切な宝物だ。一緒に育った仲間たちがあの場所で、或いは離れた土地で頑張っていることが何よりも僕の励みになる。大好きな彼らに誇れるように、あの場所に恥じないように頑張ろうと思える。

ふと街中に現れる懐かしい香り達はつい忘れそうになるそんなことを思い出せてくれる。

時代は進化するものだ。たまの帰省で様々な変化にハッとすることもある。けれどすぐに思い直す。ゆったりとして、温かく優しい。記憶の中のふるさとと何も変わらない。

ふるさと「故郷」とは離れて見る生まれ育った場所のことだという。

これからも僕は少し離れたところから思い出していく。都会の匂いの隙間、日々の暮らしの中、その香りを感じるときに、大好きな故郷の香りを見つけた時に。



新成人からの便り

「さぁ、飛び立とう」

第100回卒（平成21年）
下野木　田中健大

私たちが野木小学校に入学したのは今から十四年前、平成十五年のことです。思い返せば、右も左もわからぬまま六年生のお兄さんお姉さんに手を引かれ、色とりどりの花のゲートをくぐって野木小学校にやってきました。あれから月日は流れ、とうとう私たちも成人式を迎えます。共に時間を過ごした同級生たちも、この機会に野木地区で過ごした日々を思い出されることでしょう。

平成15年度　野木小学校入学記念　　平成15年4月6日

野木小学校で過ごした六年間という時間の中にはたくさんの思い出が詰まっています。三世代交流や運動会、田植え体験に敬老会など多くの行事を通して野木の自然を肌で感じながら、地域のみなさんと触れ合い、仲間との絆を深めることができました。

特に印象的なのは野木小学校一〇〇周年記念式典です。私たちはちょうどその年の卒業生でした。この大きな節目の記念に製作された曲が「さぁ、飛び立とう」です。六年生だった私たちも作詞を担当しました。私には四人の兄弟がいますが、今でも卒業式ではこの歌を歌っていると妹、弟から聞いて、とても驚きましたし、すごく大切な行事に携わらせていただいたのだなと改めて実感しました。一〇〇周年を記念して開催された一〇〇周年記念駅伝大会では、六年生で作ったチームが小学生の部で男女ともに一位となり、とても嬉しかったのを覚えています。私がマラソンに興味を持つきっかけにもなりました。

こうして振り返ってみれば、数え切れないほどの思い出が溢れてきます。このように学校生活や遊びに無我夢中に取り組めたのは、いつもそばで見守り、支えてくださった先生方と地域のみなさんのおかげです。

私は中学校を卒業後、県外の高専で寮生活を始めました。帰省した際に妹と弟の集団下校の見守りに行くと、とても懐かしい気持ちになります。記憶よりも少し整った道路などわずかな変化こそあれ、班長さんの黄色い旗を先頭に賑やかに田んぼ道を歩き、遊ぶ約束をしながら手を振る子供達の姿はいつかの自分たちと全く同じでした。めまぐるしく変化する社会の中、今も昔も変わらない野木の豊かな自然と、みなさんの温かい人柄はかけがえのない財産です。そして、成人という節目を迎えるにあたり、私たちもいよいよ支える側に成長していくべきなのだと感じます。そのためにも、これまで育ててくださったみなさんへの感謝の気持ちを胸に、新たな世界へと飛び立ちます。いつか、仲間たちと思い出話をしながら、小さな子供たちを見守る日々を楽しみに。

児童作文

一年生

「みてみて きいて」より

たなか ひかる

あのね。きょう、こう大くんとひょうがくんとあそんだよ。かくれんぼとおにごっこをしました。そのあと、おさんぽをしていたら、こう大くんのおばあちゃんがやきいもをしてくれました。とてもおいしかったです。たべたあとにブロックであそびました。いろんなあそびができてうれしかったです。

大え さくら

あのね。わたしもきんようびのおもちゃワールドのまねをして、おとうさんとわたしでつくりました。

わたしのつくったいろいろなおもちゃでいちばんきれいにできたのは、かいものやさんでした。どうしてかというと、いろんなものや、がっきがあるからです。

わたしのつくったおもちゃをかぞくがたのしんでくれてうれしいです。なかでもいちばんたのしんでくれたのは、かみざらにボールをのせるゲームです。どうしてかというと、なかなかはいらないからです。

二年生

「ぼくの 大すきな お母さん」

小谷 啓人

先生あのね、ぼくのお母さんはいつも早起きをして、いつもやさしいです。お母さんはいつまでもぼくのそばにいて、ぼくを守ってくれるし、洗たくや食事をがんばってやってくれています。

学校に行く日は「ひろ人、いってらっしゃい。」と毎日言ってくれます。ぼくたちを見送った後、お母さんはバタバタしながら、一生けん命働いています。仕事はお年よりのかいごです。毎日がんばっているみたいです。

帰ってきたら、休むひまもなく買い物に行ったり夜ごはんのしたくをしたりするみたいです。でも、ぼくの本読みを聞いてくれたりします。そしておふろの用意をしてくれます。おふろへ入るときは、お母さんとぼくで、いつもいっしょに入っています。おふろからあがると、二人でいっしょにねています。ちょっとだけ二人で話をします。その時間が世界一おもしろくて、楽しい時間です。お母さんが「もうねようか。」と言ってくれます。そのあと、ぽかぽかのふとんで楽しいゆめを見て、ぐっすりねむります。

そして朝になると、お母さんが作ってくれるおみそ汁とごはんを毎日たべています。お母さんのおみそ汁のあじは世界一おいしいです。お母さんのおみそ汁は、だれんちよりも、なによりもおいしいです。

お母さん、いつもしゅくだいを教えてくれてありがとう。これからもぼくのことを見守っていてね。

三年生

「秋の遠足」

田中 脩三

三年生と四年生と五年生で十月十四日金曜日に国さい交流会館と福井県ちょうと福井県けいさつ本部に行きました。バスに乗って行きました。

まずは、バスで五年生が盛り上

げてくれました。さいしょは「しりとり」をしました。さいしょの文字は「く」です。それで、大宮先生がまんじゅうのネタしか言ってなかったのでとてもおもしろかったです。ほかには、ともきさんとこたろうさんが「マツコデラックス」と言ったので大わらいしました。ほかには、僕とたくみさんで「コンビニのクレジットカード」とか言ってまたまた大わらいして、僕はちょっとはずかしかったです。

次に、タイムゲームをしました。ルールは、たとえば五秒と言ってスタートと言ったら五秒たったら二人で手をあげるゲームで、ピッタリの人がいたら名前を言うというゲームです。ざんねんながら僕はピッタリ賞になれませんでした。

ほかで心に残ったのが福井県ちょうの「ぎ会体けん」です。僕がじゃんけんにかって、知事にしつ問するやくをしました。ちなみにぎ長のやくはみゆなさんで、知事のやくはゆきのさんがやりました。知事にしつ問する時、前に行ってしつ問するので、とってもきんちょうしました。この秋の遠足で知らない事をたくさん知ることができたり、一生出来ないかもしれない事を体けん出来て、とっても楽しかったです。

秋を感じて一句

金色の麦のじゅうたん秋の山　植野 聖永

サッカーで四得点決め秋の虹　奥本 翔大

たっきゅうでサーブをきめた　ひつじ雲　尾崎結芽歩

つウノトリタ日にあたい　ひつじ雲　清水 悠花

休日をまんきつしたら十六夜　竹村 凌一

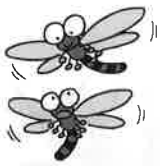
はだいろのおきわらかぶり　吊し柿　辻本 光希

卓球でスマッシコとともに　もみじちる　寺坂 実莉

一日中働くろうじん雁渡し　新田 千乃

自転車で坂登り切り秋の虹　平田 夕奈

百メートル早く走れた秋の空　山本 澪奈



「うれしかった米作り」

滝 優一郎

九月に稲刈りをしました。この稲は清水勇雄さんと地域の方々の協力で五月に植えたものです。田植えをした後、僕たちは稲の成長を何回も観察しました。観察では土、水、稲の成長に注目して観察をしました。ぼくは、田んぼにはいつも水がはってあると思っていたけれど、稲を強く育てるために水をはらない期間があることを観察を続けることで知りました。

稲刈りはこれで二回目になります。去年はうまくできなかったことがあったので今年は上手に稲を刈ることを目標に取り組みました。自分の目標を決めて取り組むことも大切だけど、高学年としての役割を考えて取り組むことも大切だと思っていました。そこで、五年生で役割分担をして、クラスのみんなで初めて稲刈りに取り組む四年生が安心して参加できるように考えました。

稲刈りはみんなで協力してうまくできました。初めて取り組む四年生も楽しそうにやっていたのでうれしい気持ちになりました。五年生は二回目だったのでみんなとてもうまく稲を刈ることができました。刈った稲は束にして、干さなくてはいけません。この作業がとても大変でした。稲の束ね方は地域の人たちに見せてもらったけれど、とても難しくてうまくできませんでした。昔は今と違い手作業ですべてやっていたと思うと本当にすごいことだと思いました。そして、地域の方々の慣れた手つきもすごかったです。稲の束はどんどん山のようになり、運んでも、運んでも減りませんでした。そんな時、自分の場所を刈り終わった人たちが手伝ってくれて助かりました。

稲刈りが終わって学校に戻ってから、地域の人と話す時間がありました。地域の人からは昔の野木について教えてもらいました。自分たちが知らないことをたくさんしることができて良かったです。二回目の稲刈りもとても楽しかったです。この行事を通じてみんなの力を合わせることの大切さと、お米を作ることの大変さをぼくは知りました。そして、これからはお米を大切にして食べたいと思います。

六年生

「やりきった体育大会」

清水　麻央

体育大会までに、私たち六年生ががんばってきたことはたくさんある中で、応援合戦と組体操「スターウォーズ」の練習に特に力を入れてきました。応援合戦では、練習の成果を百パーセント発揮できたと思います。青組の応援は、auのコマーシャルでおなじみの昔話の設定で、優勝への気持ちを思い切り表現しました。そして、組体操では、練習で一度も成功しなかった「人間起こし」という大技が、完ぺきに成功して良かったです。

体育大会を終えて、私が思ったことは、青組の結果としては残念だったけれど、青組の一人一人が練習以上の力を発揮してくれて、一つになれたことがうれしかったです。六年生にとっては最後の体育大会で、やっぱり結果は悔しいけれど、百パーセントの成果を発揮できて満足しました。

この行事を通して感じたことは、六年生になるということはとても大変だということです。私たち六年生は、五月から、いろいろなことを考え、準備してきました。私はその中でも、応援合戦のストーリーを考えたり、応援歌やダンスを考えたりすることにとても苦労しました。五年生の時には予想もしていなかったけれど、六年生では、応援合戦のこともしながら、リレーの走順を決めたり、大玉ころがしのペアを決めたりと、やるべきことが次々とありました。でも、練習や準備でいろいろがんばったからこそ、とても思い出深い体育大会になったと思います。

思い出いっぱいのとても楽しい体育大会になりました。これから先もいろいろな行事があるけれど、時には苦しさも乗り越えて、最高学年としていろいろなことにがんばっていきたいと思います。

野木小学校の今年

◎田植え 4·5年

5月17日　野木っこ農園

◎春季遠足

5月2日　小浜市若狭総合運動公園

◎入学式

4月6日　野木小学校体育館

◎泳力テスト

8月1日　野木小学校プール

◎自然教室 5年

7月26·27日　若狭湾少年自然の家

◎野木地区体育大会

6月12日　野木小学校グラウンド

◎町陸上記録会 5·6年

10月6日　若狭町立みそみ小学校

◎親子キャンプ 6年

8月6·7日　おおい町赤崎礁キャンプ

◎いもほり体験 1·2年

10月6日　野木小学校ビニールハウス

◎修学旅行 6年

10月20·21日　京都·奈良·大阪方面

◎秋季遠足 3·4·5年

10月14日　1·2年 こどもの国 3·4·5年 福井市内

◎敬老会&ふれ愛in野木

10月9日　野木小学校体育館

六年生 将来の夢

★伊藤　舜

僕の将来の夢はペット屋になることです。わけは、動物が好きだからです。これからも、今飼っている猫、カメ、金魚を大切にし、動物のことをよく知りたいと思っています。

★植野　優波

私の将来の夢は保育士になることです。わけは、自分の保育園の先生がみんな優しくて、よく遊んでもらったからです。いつも人に優しくしたり下級生の面倒を見たりするようにしています。

★北村侑希乃

私の将来の夢は習字の先生になることです。わけは、私が習字を習っていたさえき先生に恩返しをしたいからです。だから、毎週のけいこで努力を続けています。

★兼原　汰知

僕の将来の夢はスポーツ関係の仕事に就くことです。わけは、僕はスポーツが好きで、習い事でも卓球をしているからです。毎日、運動をたくさんするように心がけています。

★兼原　里佳

私の将来の夢は動物の飼育員になることです。わけは、私は動物好きで、ハムスターを飼っていたこともあり、他にも育ててみたいと思ったからです。これからも動物のことをもっと知りたいです。

★清水　永愛

私の将来の夢はダンサーになることです。わけは、2年生からダンスを習っていて、どんどんダンスを好きになっているからです。練習を積み重ねて、プロに近づけるように努力しています。

★清水　麻央

私の将来の夢は人とかかわる仕事に就くことです。わけは、修学旅行先での町のPR活動で、初めて会う方に声をかけることができたからです。コミュニケーション力をさらに高めていきたいです。

★竹村　啓汰

僕の将来の夢は卓球関係の仕事に就くことです。わけは、僕は卓球をすることが好きだからです。週一回の卓球練習を一生懸命がんばっています。

★内藤　優奈

私の将来の夢は犬に関わる仕事に就くことです。わけは、私は犬が大好きで、家でも飼っているからです。そのために、今飼っている犬を大切にし、犬関係の本を読むようにしています。

★荷川取可梨

私の将来の夢はイラストレーターになることです。わけは、私は絵を描くことが好きだし、自分が楽しい仕事で人にも喜んでもらえると思うからです。時間があるときには、ノートに絵を描くようにしています。

★平田　陸

僕の将来の夢は普通の人になることです。わけは、まだやりたい仕事が具体的には決まっていないし、普通であることこそ難しいと思うからです。当たり前のことを毎日しっかりするようにしています。

編集後記

同窓会誌二十七号をお届けいたします。ご多用の中、原稿の依頼を快く引き受けていただきました皆様、本当にありがとうございました。皆様の原稿を拝読し、母校への熱い思いを感じました。この会報が同窓会の皆様のお心をお届け出来ますことに喜びを感じております。末筆ながら、会員の皆様の益々のご健康とご繁栄をお祈り申し上げます。

■facebook https://www.facebook.com/nogi.elementary
■Eメール nogi-es@edu.town.wakasa.fukui.jp